

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
大阪バイオメディカル専門学校	平成16年3月30日	木谷秀次	〒542-0082 大阪府大阪市中央区島之内1-14-30 (電話)06-6251-8103																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人佐藤学園	平成16年3月30日	細川智吉	〒542-0082 大阪府大阪市中央区島之内1-14-30 (電話)06-6251-8103																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
商業実務	商業実務専門課程	医療福祉心理学科	2007年2月22日	-																						
学科の目的	心理学の面白さだけでなく、社会生活でのマナーも学び、社会貢献できる人材を育成する																									
認定年月日	令和2年3月25日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
3	2550	2650	870	1100	0	0																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
120人	105人	0人	3人	25人	28人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業出席点および学期末試験ならびに実習成果等の学習																						
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～9月7日 ■冬季:12月23日～1月7日 ■学年末:3月1日～3月31日	卒業・進級条件		各学年終了時において、講義科目、実験・実習科目ごとに規定された以上の単位を修得した上で、出席すべき授業日数及び各講義科目時数のそれぞれ3分の2以上出席していること。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 毎学期ごとに個別相談を行い、学生個人の意思を確認するとともに、将来に向けた指導を行う。	課外活動		■課外活動の種類 各種ボランティア、環境活動、各種学会への参加等、積極的に奨励している。 ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 就労支援施設、精神科病院、社会福祉施設など		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神保健福祉士国家試験</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>保育士国家試験</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	精神保健福祉士国家試験	③	14人	7人	保育士国家試験	③	10人	1人								
	資格・検定名	種		受験者数	合格者数																					
精神保健福祉士国家試験	③	14人	7人																							
保育士国家試験	③	10人	1人																							
■就職指導内容 学生個人の進路希望を把握した上で、校内での施設説明会、ハローワークの活用などを推奨するとともに、面接指導や書類作成指導などを行う。 ■卒業生数 29 人 ■就職希望者数 23 人 ■就職者数 23 人 ■就職率 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 79 % ■その他 ・進学者数: 0人		※別欄の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																								
中途退学の現状	■中途退学者 16名 平成31年4月1日時点において、在学者106名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者90名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由、進路変更、学業不振による ■中退防止・中退者支援のための取組 定期会議における担任から学生状況の報告により、情報共有を行っている。退学につながりそうな学生、状況に応じて、教職員全体として問題解決を図るとともに、スクールカウンセリング等を活用することで、退学防止を図っている。		■中退率 15%																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※佐藤学園奨学生制度を設け、毎年4月に進級した学生の中から、成績が優秀且つ他の学生の規範となるものに対して、奨学金を恵与します。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																									
当該学科のホームページURL	https://www.obm.ac.jp																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知(25文科生第596号))」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職した就職先が不明の者は就職者として扱う)。
③上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業現場、業界団体等で求められる知識、技術と授業で学んだ内容との乖離がないか、また、将来に向けて求められる知識、技術等を検証するため、本校校長の下に教育課程編成委員会を設置。年2回の委員会を開催し、業界動向、意見を聴取し、本校教育課程、実習等授業内容の改善等に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校校長の下に教育課程編成委員会を設置し、委員会開催内容について校長、推薦学科担当講師が教育課程検討会議で審議を行い、校長の許可を経て決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2020年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
貴田 増次郎	社会福祉法人 大阪府中央区社会福祉協議会	2019年2月1日～2021年3月31日 (2年)	①
辻 史生	社会福祉法人やなぎの里 地域活動支援センター クロスロード	2019年2月1日～2021年3月31日 (2年)	③
木谷 秀次	大阪バイオメディカル専門学校 校長	2019年2月1日～2021年3月31日 (2年)	
南 聡子	大阪バイオメディカル専門学校 医療福祉心理学科 責任者	2019年2月1日～2021年3月31日 (2年)	
守本 友美	大阪バイオメディカル専門学校 医療福祉心理学科 講師	2019年2月1日～2021年3月31日 (2年)	
加茂 智之	大阪バイオメディカル専門学校 医療福祉心理学科 講師	2019年2月1日～2021年3月31日 (2年)	
酒井 啓	大阪バイオメディカル専門学校 医療福祉心理学科 講師	2019年2月1日～2021年3月31日 (2年)	
森 健一	大阪バイオメディカル専門学校 教育部 マネージャー	2019年2月1日～2021年3月31日 (2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 2020年3月23日 10:00～11:00

第2回 2020年9月15日 10:00～11:00

第3回 2021年2月予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

2021年度より精神保健福祉士養成課程の教育課程の改正が生じるため、教育課程もそれに合わせたものに修正する必要があり、その素案をご提示したところ、大卒で承認いただいた。

コミュニケーションが苦手な学生や発達障害のある学生支援の方法として、ボランティア活動を選択授業として実施すること、発達障害の程度により支援方法が異なるため、授業担当講師との情報共有の徹底を図っていく方向で一致した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 推薦学科で指導する技術が実際の現場で活用できるのか。また、実習・演習等で学ぶ知識、技術はあくまで基本的なものであるため、最前線の現場で各企業、ダンf内藤が重要視する知識、技術の習得と乖離があることは否めない。そこで、基本・最新を問わず各企業、団体が重要視している知識、技術の習得を目的とし、連携企業、団体等との協力の下、校内及び校外における実習・演習等を実施する。また、社会人にとって必要不可欠な人間力や礼儀等を身につける機会としても重要な位置づけにある。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 企業等で必要とされる知識・技術の習得及び社会人として必要不可欠な人間力や礼儀等を身につける。また、実際の現場における業務の流れ、授業、実習・演習等で身につけた基本知識をどの程度活用できるかを学生自身が把握し、実習終了後の復習等でさらなる実践力を身につける。実習評価については、相談業務・庶務的業務等を指導教官の指示の下、実践力が見込まれるか否かを評価対象とする。		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。	醍醐病院・阿倍野ひまわり作業所・地域活動支援センター クロスロード等
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 研修等は、本校教員に対して、現在就いている職、または将来就くことが予測される職に係る職務の遂行に必要な知識、技能等を習得させることにより、その職務の遂行に必要な教職員の能力、資質等の向上を図ることを目的とし、大阪バイオメディカル専門学校「教職員研修規定」を定め、教授方法等の研修を描く峡北員が計画的に受講するよう定める。		
(2) 研修等の実績 ① 専攻分野における実務に関する研修等 研修名「全国社会福祉教育セミナー」(連携企業等：一般社団法人日本ソーシャルワーカー教育学校連盟) 期間：2020年8月24日(月) 対象：医療福祉心理学科 常勤講師 内容：ソーシャルワーク専門職陽性とソーシャルワークの実践を学び、今後のソーシャルワーカーを育成するための考え方を教員が理解することで、学生指導、教育課程等に反映させ、より実践的な学生指導を行う。		
② 指導力の修得・向上のための研修等 研修名「中堅教員研修会」(連携企業等：一般財団法人職業教育・キャリア教育財団) 期間：2020年8月24日(月)～8月26日(水) 対象：大阪バイオメディカル専門学校常勤講師 内容：自らが組織の中で活躍するために、自ら主体的かつ自律的に将来設計を行い、学校と教員自身が成長することで学生指導力を高める。		
(3) 研修等の計画 ① 専攻分野における実務に関する研修等 研修名「全国社会福祉教育セミナー」(連携企業等：一般社団法人日本ソーシャルワーカー教育学校連盟) 期間：2021年11月予定 対象：医療福祉心理学科 常勤講師 内容：ソーシャルワークに必要な技能、実習教育の方法など、精神保健福祉士として活躍するために必要な知識、技能を学び、本セミナーで学んだ内容を元に学生指導を行うことで、より実践的な教育が可能となる。		
② 指導力の修得・向上のための研修等 研修名「中堅教員研修会」(連携企業等：一般財団法人職業教育・キャリア教育財団) 期間：2021年8月予定 対象：大阪バイオメディカル専門学校常勤講師 内容：学校教育において、後進の指導等を含め、教育振興に尽力することが期待される教員を育成し、学生指導力の向上、学生満足度の向上を図る。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

企業等の学校関係者への情報提供を行い、フィードバックをいただくことで、より実社会のニーズに応じた学生指導を図るため、各種情報提供を行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・教育理念を定められているか。・学校の特色が明確であるか。等
(2) 学校運営	・運営方針は定められているか。・意思決定システムは確立されているか。等
(3) 教育活動	・各学科の教育目標、育成人物像は、その学科に対応する業界人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか。・カリキュラムは体系的に編成されているか。等
(4) 学修成果	・資格取得率の向上が図られている。・退学率の低減が図られているか。等
(5) 学生支援	・学生相談に関する体制が整備され、有効に機能しているか。等
(6) 教育環境	・施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。等
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集は適切に行われているか。・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。等
(8) 財務	・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。・予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。等
(9) 法令等の遵守	・法令、設置基準等の順守と適切は運営がなされているか。・個人情報に関し、その保護のための対策が採られているか。等
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設や活用した社会貢献を行っているか。等
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会に置いて、毎年一定数の退学者が生じており、抑制を図る必要性があるのではないかとのご指摘を受け、学生相談室を設置し、また校長自らがオープンカフェを主宰し、積極的に学生と関わることで退学防止を図っている。今後は、相談室担当カウンセラーと各教員との連携にも注力し、より学生が学びやすくなる環境づくりを目指す。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2020年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
浅野 裕三	株式会社ボゾ・リサーチセンター	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
待田 裕美	株式会社総合水研究所	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
飯野 修芳	大阪府中央区地域振興会	2019年4月1日～2021年3月31日	地域住民
森岡 聖子	主婦	2019年4月1日～2021年3月31日	卒業生保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページに毎年夏頃掲載)

URL: <https://www.obm.ac.jp/>

公表時期: 2020年8月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者への情報提供を行い、関係者よりフィードバックをいただくことで、より実社会のニーズに応じた学生指導を図るため、各種情報提供を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・学校概要
(2) 各学科等の教育	学科紹介、施設・設備
(3) 教職員	学科長紹介、obmの先生たち
(4) キャリア教育・実践的職業教育	資格サポートシステム、就職サポートシステム、インターンシップ
(5) 様々な教育活動・教育環境	学科紹介、施設・設備
(6) 学生の生活支援	学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費・各種制度、特待生制度
(8) 学校の財務	財務状況
(9) 学校評価	学校自己評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://www.obm.ac.jp/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程医療福祉心理学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			SHゼミⅠ	学校生活を共にするクラスメイトとの仲間意識を醸成し、自己の目標を明確にしていく	1通	60	4	○			○	○			
	○			SHゼミⅡ	学校生活を共にするクラスメイトとの仲間意識を醸成し、自己の目標を明確にしていく	2通	60	4	○			○	○			
	○			SHゼミⅢ	学校生活を共にするクラスメイトとの仲間意識を醸成し、自己の目標を明確にしていく	3通	60	4	○			○	○			
	○			パソコン文書作成	タイピングスピードを速め、ワードの横領能力を習得し、仕事の効率化を図る	1通	60	4		○		○			○	
	○			パソコン表計算	エクセルを使用するあらゆる場面に対応できる力を養う	2通	60	4		○		○			○	
	○			ビジネス基礎	ビジネスマナーの基礎知識、応用を学ぶ	1通	60	4	○			○			○	
	○			就職対策Ⅰ	履歴書等の書き方、面接指導等を行い、内定にむずびつける	2後3前	60	4	○	△		○	○			
	○			日本語表現	文章内容と構成を考え、正しく表現、表記する力を養う	1通	60	4	○			○	○			
	○			ボランティア論	現代社会におけるボランティアの意義と実情を学ぶ	1前	30	2	○			○	○			
	○			学科コミュニケーション交流	全学年の交流を通じて、上級生は教える力、下級生は教わる力を身に着ける	123後	90	6		○		○	○			
	○			人体の構造と機能及び疾病	人体の正常状態としての解剖生理学、疾病論を学ぶ	3前	30	2	○			○			○	
	○			心理学理論と心理的支援	心理学の理論と支援に関する基礎を学ぶ	1通	60	4	○			○			○	
	○			低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助の歴史を振り返りつつ、公的扶助の概念と範囲等について学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
	○			精神疾患とその治療	精神医学の基本的知識を学ぶ	1通	60	4	○			○			○	

15	○		精神保健の課題と支援	精神保健の課題とそれがなぜ起こっているのかを考える	1通	60	4	○			○			○
16	○		精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	ソーシャルワーク、相談援助とは何かを理解する	1前	30	2	○	△		○			○
17	○		コミュニケーション演習	心理学・臨床心理学の知見からコミュニケーションについて考える	1後	30	2		○		○			○
18	○		職場体験指導	福祉現場での実習を行い、現場での働き方、将来像をイメージする	1通	60	4	○			○			○
19	○		社会福祉	社会福祉の歴史を概観しつつ、その基礎を学ぶ	1前	30	2	○			○			○
20	○		社会心理学	社会心理学の歴史を学び、社会的な人間の行動原理を理解する	2前	30	2	○			○			○
21	○		虐待心理学	児童虐待等の虐待について学び、その対処方法を学ぶ	3前	30	2	○			○			○
22	○		発達人格心理学	心理的な特徴や成長過程が人格にどう影響するかを学ぶ	1通	60	4	○			○			○
23	○		メンタルヘルスケア	学校や職場に必要なメンタルヘルスケアに関する知識や対処方法を習得する	1後	30	2	○			○			○
24	○		カウンセリング概論	カウンセリングという作業がどのような全体像なのか理解する	1前	30	2	○			○			○
25	○		カウンセリング演習Ⅰ	カウンセリングの基礎をグループワーク等を通じて修得する	1後	30	2		○		○			○
26	○		インテーク面接	インテーク面接を実施する技術を身に付ける	2前	30	2	○			○			○
27	○		社会理論と社会システム	社会学の基本的な視点や考え方を学ぶ	3前	30	2	○			○			○
28	○		現代社会と福祉	ソーシャルワークの体系的な理論と技術を習得する	3通	60	4	○			○			○
29	○		地域福祉の理論と方法	地域福祉の基礎知識を体系的に学び、理解する	2通	60	4	○			○			○
30	○		社会保障	社会保障制度を知り、制度を効果的に活用するための知識等を学ぶ	3通	60	4	○			○			○
31	○		福祉行財政と福祉計画	社会福祉実践を支える制度的な枠組みを学ぶ	3前	30	2	○			○			○

32	○	保健医療サービス	保健医療サービスの基本的な構造と今日的な変化を踏まえ、専門職の役割を考える	3 後	3 0	2	○			○			○	
33	○	権利擁護と成年後見制度	基本的なリーガルマインドを身に着け、具体的な法制度について学習する	2 前	3 0	2	○			○			○	
34	○	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者に関わる法制度を体系的に学ぶ	2 後	3 0	2	○			○			○	
35	○	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	相談援助の体系、多職種連携などについて学ぶ	1 後	3 0	2	○			○			○	
36	○	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	相談援助活動の展開方法、支援等の基本的な考え方と技術を学ぶ	2 通	1 2 0	8	○			○			○	
37	○	精神保健福祉に関する制度とサービス	現在の福祉施策、精神障害者の支援に関する制度とサービスを理解する	2 通	6 0	4	○			○			○	
38	○	精神障害者の生活支援システム	精神障害者の置かれている現状を学び、自立とは何かについて考える	2 前	3 0	2	○			○			○	
39	○	精神保健福祉援助演習（基礎）	対人援助の基礎を学ぶことを通じ、他者を理解する	1 後	3 0	2	○			○			○	
40	○	精神保健福祉援助演習（専門）	対人援助の基礎を学ぶことを通じ、他者を理解し、自身を知る	2 通	6 0	4	○			○			○	
41	○	精神保健福祉援助実習指導	障害者の相談援助に必要な専門的知識と技術を習得する	2 後 3 通	9 0	6	○	△		○			○	
42	○	精神保健福祉援助実習	精神保健福祉の現場体験を通じて、実践力を身に着ける	2 前 3 後	2 1 0	7			○		○		○	○
43	○	国家試験対策	精神保健福祉士国家試験合格に必要な基礎知識を習得する	3 通	6 0	4	○			○			○	
44	○	国家試験対策集中Ⅰ	精神保健福祉士国家試験合格のための知識、実践力を身に着ける	3 前	3 0	2	○			○			○	
45	○	国家試験対策集中Ⅱ	精神保健福祉士国家試験合格のための知識、実践力を身に着ける	3 後	3 0	2	○			○			○	
46	○	スクール（学校）ソーシャルワーク論	子供を取り巻く環境を理解し、その問題解決のための手法を学ぶ	3 前	3 0	2	○			○			○	
47	○	スクール（学校）ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク支援の方法を理解する	3 前	3 0	2	○			○			○	
48	○	スクール（学校）ソーシャルワーク実習指導	スクールソーシャルワーク実習のための基本的な知識、書類作成方法、心構え等を学ぶ	3 後	3 0	2	○			○			○	

49	○	スクール（学校）ソーシャルワーク実習	スクールカウンセラーとしての実践力を身に着けるため、学校現場を体験する	3 後	8 0	3			○	○	○		
50	○	カウンセリング演習Ⅱ	カウンセリングの基礎をグループワーク等を通じて修得する	2 通	6 0	4		○	○	○			
51	○	カウンセリング演習Ⅲ	カウンセリングの基礎をグループワーク等を通じて修得する	3 通	6 0	4		○	○	○			
52	○	専門用語	臨床現場において使用される専門用語を理解する	2 前	3 0	2	○		○	○			
53	○	芸術療法	座学と体験学習を通じて、知識や視点、技術を身に着ける	3 前	3 0	2	○		○	○			
54	○	心理検査法Ⅰ	表面化しづらい心理をどのような方法で知るかを理解する	2 後	3 0	2	○	△		○		○	
55	○	心理検査法Ⅱ	心理検査法Ⅰで学んだ知識を生かし、実践を通じて活用する	3 前	3 0	2	○	△		○		○	
56	○	アサーション	アサーションについて学び、トレーニングを通じて率直に自己表現ができるようになることをめざす	1 後	3 0	2	○			○		○	
57	○	ひきこもり相談	ひきこもりに至る心理やその解決方法について学び、実践力を身に着ける	3 前	3 0	2	○			○		○	
58	○	ストレスケア・リラクゼーション技法	ストレスへの理解を深め、リラクゼーション法を体験し、身に着ける	3 後	3 0	2	○			○		○	
59	○	セラピーⅠ	メイクの心理的、外的効果を学ぶ	1 後	3 0	2	○			○		○	
60	○	セラピーⅡ	ハンドトリートメントなどの実践を通じて、癒しを理解する	3 前	3 0	2	○			○		○	
61	○	セラピーⅢ	アロマに関する知識を学び、演習を通じて癒しを理解する	3 後	3 0	2	○			○		○	
62	○	現場実習指導	現場実習に挑むにあたっての心構え、実習日誌の書き方等を学び、現場実習を実践する	2 通	6 0	4	○			○		○	
63	○	児童関係実習	自動関連施設への実習を通じて、学んだ知識を実践に生かす	2 通	6 0	2			○		○		○
64	○	現場体験実習事後指導Ⅱ	現場での実習を通じ、学んだ内容を発表、報告する	2 通	6 0	2	○			○		○	
65	○	現場体験実習事後指導Ⅲ	実習を通じて学んだ内容を就業後に結び付けるための指導を行う	3 通	6 0	2	○			○		○	

66	○	保育原理	保育の歴史、国の保育方針を学び、子供の保育の中の位置づけを理解する	2 前	3 0	2	○			○			○
67	○	教育原理	教育の方法、歴史等を学び、保育士合格のための知識を習得する	2 後	3 0	2	○			○			○
68	○	社会的養護	社会的擁護に関する制度、歴史等を学ぶ	2 前	3 0	2	○			○		○	
69	○	児童家庭福祉	児童家庭福祉の歴史やその基本的な考え方を学び、必要な援助技術をみにつける	1 後	3 0	2	○			○			○
70	○	子どもの食と栄養	保育士試験対策として、子供の食と栄養について学ぶ	1 前	3 0	2	○			○			○
71	○	子どもの保健	保育士試験対策として、子供の保険について学ぶ	1 後	3 0	2	○			○			○
72	○	保育実技（音楽）	ピアノ演奏の実技、歌唱力を身に着ける	2 通	6 0	4			○	○		○	
73	○	保育実技（言語）	保育士用語と社会人としての教養と言葉遣いについて学ぶ	3 前	3 0	2			○	○			○
74	○	保育実技（絵画）	絵画制作のスキルと製作の楽しみを理解し、現場へとつなげる	3 後	3 0	2			○	○			○
75	○	保育士受験対策	保育士試験対策として学んだ知識をブラッシュアップし、実践力を身に着ける	2 後 3 通	9 0	6	○			○			○
76	○	手話	聴覚障害者と違和感なく接する感覚を身に着け、言語として理解する	3 前	3 0	2			○			○	○
77	○	ビジネスマナー	社会人としてのマナーを身に着けるとともに、働くことへの自信をみにつける	2 後 3 前	6 0	4	○			○			○
78	○	医療事務	手書きによる治療費の計算方法を学ぶ	2 通 3 通	2 4 0	16			○			○	
79	○	介護職員初任者研修	介護の基本的な知識・技能を身に着ける	2 後	1 3 0	8	○	△		○			○
80	○	インターンシップA	インターンシップを通じ、実践力を身につける	3 通	9 0	3				○		○	○
81	○	インターンシップB	インターンシップを通じ、実践力を身につける	3 通	9 0	3				○		○	○

82		○	インターンシップC	インターンシップを通じ、実践力を身につける	3通	90	3			○	○	○		
83		○	インターンシップD	インターンシップを通じ、実践力を身につける	3通	90	3			○	○	○		
84		○	インターンシップE	インターンシップを通じ、実践力を身につける	3通	90	3			○	○	○		
85		○	ボランティア自主活動A	ボランティア活動を通じて、障害者等の要支援者への対応を学ぶ	3通	30	1			○	○	○		
86		○	ボランティア自主活動B	ボランティア活動を通じて、障害者等の要支援者への対応を学ぶ	3通	60	2			○	○	○		
87		○	ボランティア自主活動C	ボランティア活動を通じて、障害者等の要支援者への対応を学ぶ	3通	90	3			○	○	○		
合計					87科目			4620単位時間(277単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
定期試験、提出課題、出席点を加味した成績評価において、「C」以上の科目の履修合計時間が3年間累計で2550単位時間以上あること		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。